

教師の心構え

教師の最も重要な仕事は授業です

☆ 責任感と緊張感をもって授業に臨む。

- 「できた、分かった」という喜びは、子どもの成長のエネルギーとなります。学ぶことの楽しさを指導してくれる教師に子どもや保護者は信頼を寄せます。
- 教師には、子どもに分かる授業をするために最大限の努力をする責任があります。
- 子どもにとって、その授業は一生に一度きりです。教材研究や準備を十分に、緊張感をもって授業に臨みましょう。



☆ 子ども理解に基づいた教材研究をする。

- 子どもは、誰もが「分かりたい」「できるようになりたい」という気持ちをもっています。
- 一人一人に個性があるように、つまずき方はそれぞれ異なっており、その原因や背景があります。教師の支援によって、つまずきを克服した子どもは、さらに次のステップに挑戦しようとしています。
- 学習目標を具体的に設定し、子どもが「何を」「どのように考え」「どうすることができるようになることを目指すのか」「つまずきにどう対処するのか」などについて事前に教材研究することが大切です。

☆ 常に授業技術の向上に努める。

- 自分が「知っていること」「できること」と、「指導すること」は別物です。子どもの主体的な学びを引き出すように指導するためには、授業技術が必要です。
- 自分から進んで、先輩、同僚、書籍などから学ぶ機会をつくり、実践することにより授業技術を高めていきましょう。

〈参照〉 新しく教員となったみなさんへ（香川県教育委員会）

授業力向上のために（香川県教育センター）



☆ 授業を見る、授業を見せる。

- 校内で日々の授業を気軽に見せ合い、学び合きましょう。
- 授業を見る場合も、見せる場合も、視点や課題をしっかりとっておくことが大切です。
- よい授業を見る機会を、自分から求めていきましょう。

子どもの「やる気」に火をつける、先生のがんばる姿！

教師が苦手なことや苦しいことに挑戦する姿を見せましょう。また、教材研究や資料準備への熱意を見せることも「やる気」を高めます。「凡庸な教師はただしゃべる。良い教師は説明する。優れた教師はやって見せる。偉大な教師は子どもの心に火をつける。」（ウィリアム・アーサー・ワード）

わん！ポイント！

